

2021

Global  
Human  
Sciences

神戸大学国際人間科学部

人という始源、地球という舞台。



## グローバルイシューへの挑戦

国際人間科学部は、深い人間理解と他者への共感をもって地球的規模の課題に向き合い、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成します。現代の世界には、環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わり、現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題（グローバルイシュー（global issues）と呼びます）が数多く存在しています。本学部では、様々な専門分野からこのグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションをとり、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。

## 学部を構成する4学科

グローバル文化学科  
発達コミュニティ学科  
環境共生学科  
子ども教育学科



### グローバル文化学科 鶴甲第1キャンパス

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

### 発達コミュニティ学科 鶴甲第2キャンパス

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）



### 環境共生学科 鶴甲第2キャンパス

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

### 子ども教育学科 鶴甲第2キャンパス

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）  
学士（教育学）（Bachelor of Education）

## Contents

学部長からのメッセージ	2
アドミッション・ポリシー	3
カリキュラム	4
グローバル教育	6
グローバル体験	8
学科紹介	9
グローバル文化学科	10
発達コミュニティ学科	16
環境共生学科	22
子ども教育学科	28
国際交流	32
主な協定校	33
学生サポート	34
募集人員、取得可能な資格免許、沿革	36
アクセス	37

## 学部長からのメッセージ

「夏に北海道のフレベの滝という観光地に行ったんですよ」。先日、大学までタクシーを利用した際、運転手さんからこう話しかけられました。「観光客の中に、滝の展望台のごみ拾いを自発的に行っている2人の若者がいたので「どこの学生さんですか」と訊いたら、「神戸大学です」と言うので、ビックリするとともにとてもうれしかったですよ。私も神戸市民なので」と、彼はとても楽しげに話してくれました。学部名までは訊けなかったのですが、私も神戸大学の教員として誇らしい思いがしました。目の前の自己利益でなく公共の場の美観のために、自分の時間と労力を惜しまず払うことができるというのは、疑問の余地なく称賛すべき心柄だと思います。

私たちはふだん、自分を中心に多くの“境界線”を心に描いて、生活の道しるべにしています。わが家の家族と隣家の家族、わが校の生徒と他校の生徒、わが国の国民と他国の国民、等々。倫理学では、自分の家族とか友人とか、自分と特別の関係をもつ人々に対しては負うが、それ以外の人々には負わないとされる義務を、特別の義務 (special obligation) と呼びます。実際、私たちは、社会的により近い関係にある人たちにいっそう多くの共感や同情を抱く傾向があり、この傾向が雇用や指名における「えこひいき」として表れるときは非難の対象にもなります。他方、自分の家族が困っているときに手助けしたりいたわったりすることは、私たちの当然の義務とみなされます。自宅を掃除したからといって——親はともかく——誰も褒めてくれませんし、友人宅の大掃除に参加したからといって社会的称賛を集めることもありません。冒頭の青年たちが称賛を集めたのは、家族や友人の範囲を画する境界線を身軽に乗り越えて、“身内”の外側にある“公共の利益”を促進したからです。

20世紀後半から情報、資本、モノ、そして人間の移動手段が長足の進歩を遂げた結果、これらが国家や地域間の境界線を乗り越えて大規模に移動するグローバリゼーションという現象が立ち現れています。グローバリゼーションの時代において、私たちは、他国民に対しては負わない“特別の義務”を同国民に対して果たして負うのかという論点が、今新たに議論を集めています。

国際人間科学部の教育目標は、グローバリゼーションの趨勢に立ち向かい、現代社会が抱える諸課題を、様々な境界線を乗り越えて多くの人々と協力しながら解決へ導くことのできる“協働型グローバル人材”を養成することです。件の学生たちのように、身内のためだけでなく、匿名の“他人”のためにエネルギーを注ぐことができるというのは、“協働型グローバル人材”にも求められる品性だと思います。私たちは、彼らがしたのと同じように、果たして国境線を乗り越えられるでしょうか。国境線をはじめ、多様な境界線を乗り越える意欲と気概を伸ばすことは、本学部の大切な使命の一つだと考えています。



櫻井 徹 教授  
国際人間科学部長

## アドミッション・ポリシー

国際人間科学部では、グローバル社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関する諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

## 国際人間科学部の求める学生像

- 1 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生  
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
- 2 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生  
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕
- 3 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生  
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕



鶴甲第1キャンパス



鶴甲第2キャンパス

# Curriculum カリキュラム

## 学びの特色

### 1 グローバルな発信と課題解決のための基礎をつくる

グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、またICTによる情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な技能を身に付けることを目的として、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための「協働型リーダーシップ論」や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握するために必要な基本的技能を培う「フィールドワーク方法論」などの専門科目を学び、実践的対応力を習得します。

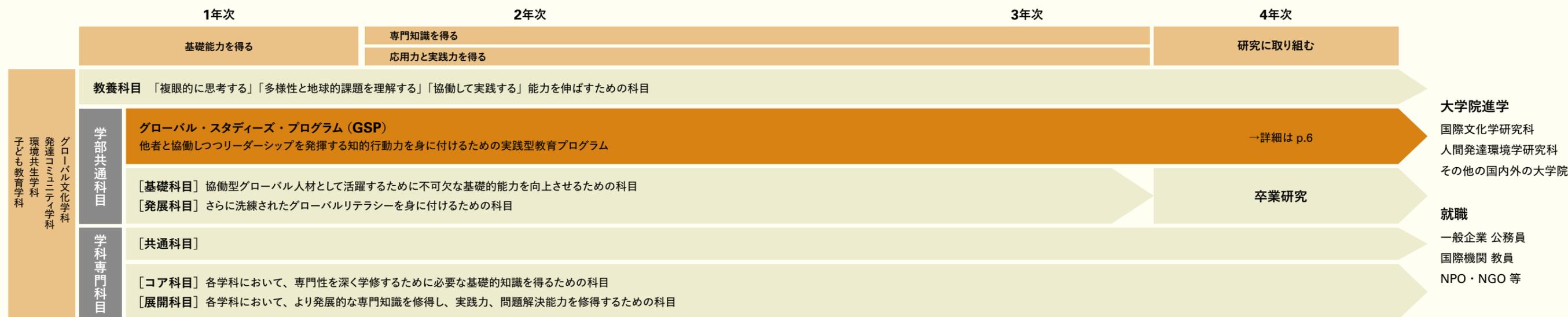
### 2 実践的なグローバルを体験する (詳細は、p.6へ)

グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP)」を設置しています。このプログラムでは、専門性と希望に応じ用意されたコースの中から、学生全員が自らの海外での学びの場を選択し、学修の具体的な課題を自ら設定して、海外研修と国内外でのフィールド学修に参加します。GSPを通じて得た具体的な体験から、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。

### 3 多角的視点から専門的知識を身に付ける

「異文化理解」「人間発達」「環境共生」に視点をおき、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これと連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。ラーニングコモンズなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置など、全ての形式の授業（講義、演習、実験・実習）においてアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、専門的知識をベースに、自ら課題を発見し解決する力を養います。

詳細は、  
グローバル文化学科 ……p.10  
発達コミュニティ学科 ……p.16  
環境共生学科 ……p.22  
子ども教育学科 ……p.28



## ゼミ・研究



文化政策・アートマネジメント

古田あさひ

グローバル文化学科  
グローバル文化形成プログラム 4年

私の専門は“アーティストと社会を繋ぐ”学問で、今の社会で見過ごされがちな文化・芸術を人々に届ける素敵な役割です。私自身、昔から音楽が好きでしたが、仕事にできるとは思っていませんでした。「音楽を届ける仕事=演奏家」という狭い知見しかなかったからです。でも国際人間科学部に入って世界が広がりこの学問と出会えました。この学部では本当に多様な分野について学べ、一見関係がないことも、ふとしたときに自分の専門に活かすことがあります。私はこの学部でジェネラリスト並みの知識を持ったスペシャリストになることを目指しています。



自分が学びたいことを学ぶ楽しさ

榎津瑞久

発達コミュニティ学科  
心の探究プログラム 4年

私は生理心理学や精神生理学の分野に関心があり、所属するゼミでは睡眠について生理的・心理的な両側面から検討する方法を学んでいます。最も関心があるのは、睡眠中の金縛りを生理的な現象としてとらえて、金縛りになりやすい身体や精神の状態についての理解を深めることです。これは私自身の体験から生じた関心であり、このような自分の知的好奇心をくすぐる研究に取り組みたいです。将来は大学院進学を考えており、大学や大学院で研究したことを活かすことができる研究職に就きたいと考えています。



何でいろんな形の花があるのだろう

川上風馬

環境共生学科  
環境自然科学プログラム 4年

私は元々理科が好きで、物化生地をまとめて勉強したいと思い、この環境自然科学プログラムに進みました。ここで様々な講義を聞き、ハエトリグサやラフレシアなどの不思議な植物に対して、何でそんな形になったのかを知りたいと思い、現在の研究室を選びました。今は多様な花の形とそこにやってくる昆虫との関係、特に興味を持ったサトイモの仲間であるテンナンショウという植物つける奇妙な花の形の謎について学外学内の多くの人たちに助けられながら研究しています。私は卒業後も大学院に上がってテンナンショウの研究を続けようと思っています。



子どもが積極的に学ぶ授業

高濱七穂

子ども教育学科  
学校教育論コース 4年

私は、教育方法学のゼミに所属し、アクティブ・ラーニングについて学んでいます。教育実習の際、教科書の内容を先生が教えるだけでなく、子どもが中心となって友達と話し合いながら学習を進めている姿が素敵だと思い、研究しようと思いました。特に、子どもの興味があることから課題点を見つけ、試行錯誤する過程で知識を身につける実践がおもしろいと感じたので、分析して研究したいと思っています。卒業後は小学校の先生になり、大学での研究を活かして子どもが積極的になれる授業をできたらいいなと思っています。



**Global Studies Program (GSP) グローバル・スタディーズ・プログラム**

グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）とは、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的とし、本学部生全員が海外研修とフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外の多くのフィールドで実施される個別プログラムへの参加を通じて、グローバル社会の課題解決を目指して多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために必要な力を自らの中に育てていきます。

**1 グローバルイシューの現場での実践的な取り組み**

「グローバルイシュー概論・演習」を通じ、文理の境界を越えた様々なグローバルイシューについて学びます。そこで培った自らの興味・関心にもとづき、学生自身がテーマ設定をして、海外、国内の「現場（フィールド）」を選択します。フィールドで実際に様々な人々と出会い、協働することを通して、より広い視点から自らのテーマをグローバルイシューとして深化させ、その解決を模索します。

**2 多様なプログラム**

GSPでは、研修の期間、内容、フィールド学修の場所によって、「実践型」「研修型」「留学型」という3つのグローバル・スタディーズ・コース（GSコース）が設定されています。学生は、自らの学修計画に応じて、一つのGSコースを選択し、さらに各コースのもとにある合計100を超える個別のプログラムの中から、自分が取り組むグローバルイシューに最も適したプログラムに参加します。

**3 学生一人一人の専門性に合わせた学修指導—GSPオフィス**

GSPでの学修を支援するために、GSPオフィスを設置し、オリエンテーション・リフレクション、渡航ガイダンス、危機管理オリエンテーション等、きめ細かい情報提供と学生の主体性を引き出す指導をしています。

**GSPオフィス**

海外研修やフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが常駐しており、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、目的を達成できるよう、学業と海外生活の両面についてアドバイスを行います。各種プログラムに関する最新情報の提供や海外研修のための奨学金の紹介も行っています。渡航前の「オリエンテーション」での危機管理に関するアドバイスの他、神戸大学全体はもちろん、海外危機管理専門の機関とも連携しながら、渡航中の学生の安全確認等を実施します。



**GSPオフィス教員**

室長	太田和宏 教授
副室長	貞好康志 教授
統括コーディネーター	落合知子 准教授
コーディネーター	水野直子 講師
コーディネーター	正楽 藍 講師
コーディネーター	軽込 郁 助教
コーディネーター	阿部 哲 助教



GSPに関するQ&A



GSPへの参加状況

**GSPの流れ**

GSPは、事前学修、GSコース（海外研修とフィールド学修）、事後学修の3つのステージで構成されます。



(注) 個別のプログラムへの参加費用や必要となる保険加入等は自己負担となります。海外研修に係る学生の経済的な負担を軽減するため、神戸大学の助成制度や日本政府の支援制度を活用することができます。

# グローバル体験

GSPを通して、国内外で様々な体験をした先輩たちのメッセージを紹介します。

## 取材そして記事を書く中での翻訳



**留学型  
GSコース**

ただ翻訳することだけではなく、英語のニュアンスを日本語でどう再現するかについて学びました。

**中野彩記子**  
グローバル文化学科 3年

西オーストラリア大学（オーストラリア）へ交換留学

私は、交換留学をしながらExperth（エキスパス）というペースを紹介する日本語情報誌のインターンシップをしていました。ローカルの方々に英語で取材をし、日本語で記事を書く過程の中で、ただ翻訳することだけではなく、英語のニュアンスを日本語でどう再現するかについて学びました。このような実りあるフィールドワークは、渡航前のGSP演習での、渡航先の環境や自分の学びたい分野、フィールドワークに向けてのしっかりとした事前準備があって実現しました。演習中は、GSPオフィスの先生が学生一人一人のグローバルイシュー体験に親身になって下さり、学びを深める事ができました。この経験を生かし、今度は日本のことを海外に発信する仕事に就きたいと思っています。

## 貴重な場で学んだ、教養と出会いの大切さ



**研修型  
GSコース**

海外で痛感したのは、現地の学生の語学力はもちろん、問題意識、考察力、発信力のレベルの高さでした。

**三井爽平**  
発達コミュニティ学科 3年

ケンブリッジ大学ホムートン・カレッジ  
アカデミック英語（英国）  
マスターズ甲子園プログラム（国内）

私はGSPのプログラムを利用し、国内ではマスターズ甲子園の運営に携わり、海外ではイギリスのケンブリッジ大学に1ヶ月留学しました。海外で痛感したのは、他大学の参加者や現地の学生の語学力はもちろんですが、問題意識、考察力、発信力のレベルの高さでした。これは自分にとってとても刺激になりました。今回の研修で得たのはそのような自分を鼓舞する刺激、現地やイベントで得た人脈です。ここで出会った人とはまだつながっていて、かけがえないものとなりました。海外についての情報はありふれていますが、実際に一歩踏み出して行ってみようということが大切だと気づきました。今回得た刺激と経験は大きな財産となってこれからの人生を豊かにしてくれると思います。

## 日本ではできない天文学の研究



**実践型  
GSコース**

望遠鏡を扱って星雲や小惑星の観測をし、その後光度などから小惑星の解析を行いました。

**宮川大輝**  
環境共生学科 3年

オレゴン大学 バインマウンテン天文台  
プログラム（米国）

私はもともと地学や天文学の研究に興味があり、普通ではできない天文学に関する実践的なことを学べると知って、このプログラムに参加しました。実際にこのプログラムでは、前半の一週間にオレゴン大学内で英語で太陽系や小惑星、望遠鏡などの天文学についての基礎知識を学びました。そして、後半の一週間に天体観測に適した山の上に行き、大学の先生たちに教わりながら実際に望遠鏡を扱って星雲や小惑星の観測をし、その後光度などから小惑星の解析を行いました。私の専攻は数学なのでこのプログラムで学んだことを直接生かす機会はないかもしれませんが、数理統計の分析対象などという形で今後の研究に活かせるのではないかと考えています。

## 隣国から学んだこと



**実践型  
GSコース**

難民が発生する現場の近くの支援の場へ行くことが夢でしたが、定住する国での支援にも興味を持つようになりました。

**松本一紗**  
子ども教育学科 3年

韓国における小学校の英語教育授業の実践と教員養成（韓国）

私は、将来、難民の教育支援をしたいと考えています。その上で、教育実習なども考慮して、このプログラムを選びました。研修では、自分なりに問いを立て、自分の将来やりたいことである難民支援とつながるように学修を進めました。その中で、韓国では、日本よりも異文化をルーツにもつ子どもへの支援が盛んで、特に教員の意識や技量が高いということ、また、済州から日本へ難民が流入した歴史を詳しく知ることができました。研修前は、難民が発生する現場の近くの支援の場へ行くことが夢でしたが、定住する国での支援にも興味を持つようになりました。これからは、自分には何ができるのかを模索しながら、大学院でさらに教育について研究したいと思っています。



# 学科紹介

**グローバル文化学科**..... 10

- グローバル文化形成プログラム 12
- グローバル社会動態プログラム 14
- グローバル・コミュニケーションプログラム 15

**発達コミュニティ学科** ..... 16

- 社会エンパワメントプログラム 18
- 心の探究プログラム 19
- アクティブライフプログラム 20
- ミュージックコミュニケーションプログラム 21
- アートコミュニケーションプログラム 21

**環境共生学科** ..... 22

- 環境自然科学プログラム 24
- 環境数理科学プログラム 25
- 生活共生科学プログラム 26
- 社会共生科学プログラム 27

**子ども教育学科** ..... 28

- 学校教育学コース 30
- 乳幼児教育学コース 30





# グローバル文化学科

本学科では、多文化間の境界を乗り越えるグローバル共生社会を実現するため、高度な外国語の運用能力とICT教育に基づく情報分析力や発信力を駆使して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推し進め、多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐるグローバルな課題の解決への道筋を社会に発信する能力をもつ人材を養成することを目標とします。この目標を達成するために、文化、社会、コミュニケーションを軸に「グローバル文化形成」「グローバル社会動態」「グローバル・コミュニケーション」の3つの教育研究の柱を置き、これらの切り口から人間社会における多様なグローバルイシューを解決する糸口を探していきます。

- 【プログラム選択】  
 グローバル文化形成プログラム  
 グローバル社会動態プログラム  
 グローバル・コミュニケーションプログラム

## 予想される進路

本学科が育成するグローバルな課題に関するリーダーシップを發揮できる人材は、現代社会の幅広い分野で求められています。卒業生の進路としては、海外展開の活発な製造業、マスコミ、情報通信業、金融業の他、外務省・経済産業省や各都道府県などの国家・地方公務員、JICA・兵庫県国際交流協会等の国際協力機関に加え、大学院進学等が考えられます。

## 国境を越えたコミュニケーションを推進できるリーダーシップを備えた人材を養成する

## 学びの特色

- 1 高い専門性とリーダーシップを備えた人材を養成する
- 2 多彩な学際的カリキュラムを通して、専門的能力を身に付ける
- 3 「留学したい」を後押しする、長期留学をサポートするカリキュラム

本学科の軸となる3つの柱「グローバル文化形成」「グローバル社会動態」「グローバル・コミュニケーション」、それぞれに対して教育プログラムを設定しています。各自の興味や将来の進路などの目的に応じて、教育プログラムの枠を超えた柔軟な授業の選択が可能です。

受入留学生を交えた国際共修授業はもとより、多彩な語学教育、長期の交換留学制度、国内外でのフィールドリサーチやインターンシップ等、多様なアクティブ・ラーニングを利用しながら、それぞれの専門的能力を修得できるカリキュラムを用意しています。さらに、卒業論文については「グローバル文化特別演習」を設定し、論文指導教員よりきめ細やかな指導を受けて学修成果の総仕上げを行います。

選抜を経て協定大学に留学する交換留学プログラムでは、留学先で修得した授業の単位は神戸大学の単位として認定することができます。また、正規の留学中も、神戸大学に在学していますので、これらを上手く利用すれば、1年間の長期留学を含めても4年間で卒業することが可能です。

		1年次		2年次		3年次		4年次	
教養科目	情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目		外国語		基礎教養科目		総合教養科目	
	GSP [p.6]	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学型GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース)		GSP演習科目(リフレクション)	
学部共通科目	基礎・発展科目	【学部共通】基礎科目		【学部共通】発展科目		【学部共通】基礎科目		【学部共通】発展科目	
		初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論	異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンバワメント論 国際開発援助論(JICA)	国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論	コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	Academic Communication(英) Academic Writing(英) Academic Communication(独、仏、中、露) Academic Writing(独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan	日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習	途上国農村地域開発論 English Presentation Skills English for Professional Purposes	
共通科目	基礎・コア・展開科目	情報科学概論 グローバル・ヒストリー グローバル化と現代世界 Oxbridge English Summer Camp 1		先端科学社会文化論(JAXA) 日欧比較セミナーI 日欧比較セミナーII Aspects of EU Culture and Society(Lecture) Aspects of EU Culture and Society(Seminar)		Lectures on Social Dynamics Lectures on Cultural Formations Lectures on Global Communication Oxbridge English Summer Camp 2 EUエキスパート人材養成プログラム特別講義		Oxbridge English Summer Camp 3 日欧比較セミナーIII	
		日本社会文化論 中国社会文化論 環大西洋文化論 文化政策論 文化人類学 現代社会理論 国際関係論 近現代社会思想論 現代IT入門 非言語コミュニケーション論 第二言語習得論 グローバル文化形成基礎演習A、B グローバル社会動態基礎演習A、B グローバルコミュニケーション基礎演習A、B	グローバル文化形成プログラム	日本歴史文化論 日本メディア文化論 日本文化交流論 日本思想文化論 近現代アート論 近現代文化言説論	アメリカ文化論 アメリカ社会論 東アジア政治社会論 オセアニア社会文化論 北アジア歴史社会論 東南アジア社会文化論	東南アジア政治文化論 ロシア・東アジア社会文化論 ヨーロッパ社会文化論 ヨーロッパ文化形成論 アートマネジメント論 東欧・ロシア社会文化論	英米テキスト文化論 近現代モード論 表象文化形成論 近現代表象文化論 視覚文化論 文化翻訳論	比較文化論 宗教文化論 科学技術文明論 グローバル文化形成基礎演習C、D グローバル文化形成発展演習A、B	グローバル文化形成発展演習C、D グローバル社会動態 発展演習C、D
学科専門科目	基礎・コア・展開科目	グローバル社会動態プログラム		近現代政治思想論 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 比較民族学	比較政治社会論 多文化政治社会論 近現代経済思想論 グローバル正義論	現代社会人類学 文化混交論 現代民族誌学	平和構築論 比較政策論 越境社会学	グローバル社会動態基礎演習C、D グローバル社会動態発展演習A、B	グローバル文化特別演習
		グローバル・コミュニケーションプログラム	コミュニケーション表現論 翻訳コミュニケーション論 音声コミュニケーション論 コミュニケーション比較論	データマネージメント ITコミュニケーションデザイン 統計情報処理 社会システム科学	認知コミュニケーション論 コミュニケーション構造論 言語機能論 日本語・日本事情演習	グローバル・イングリッシュ・ヒストリー グローバルコミュニケーション基礎演習C、D グローバルコミュニケーション発展演習A、B	グローバルコミュニケーション 発展演習C、D	グローバル文化特別演習	

(注) 2021年度からカリキュラムが一部変更となります。

# グローバル文化形成プログラム

今日の世界に存在する多様な文化と価値観が、どのような過程を経て形成され、また相互の交流・摩擦・征服等を通じていかに変容してきたのかを正確に把握し、我が国との相互比較的な視点も交えた文化的理解ができる力を身に付けます。

## 【卒業論文の例】

- ◎タイ人シェフの職業生活世界について—神戸・三宮で働くタイ人シェフを例に
- ◎水洗トイレのイノベーションと日本人の排泄観
- ◎鹿児島と西洋音楽—軍楽と吹奏楽を中心として
- ◎チェコの建築とまち
- ◎ワインと西欧文化の関係について—ワインの象徴的意味、または役割
- ◎フランスの恋愛観と結婚観—歴史の変遷から現在をみる
- ◎クロナラ暴動にみるオーストラリア多文化主義の問題点—なぜ多文化主義国家で人種差別的暴動が起こったのか
- ◎アボリジニのキリスト教化に関する考察—アボリジニ文化とキリスト教の共存の可能性
- ◎ドイツにおける国家と記念碑—「虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための記念碑」をめぐる論争を辿って
- ◎アフターマティブ・アクションの現段階—差別は正から多様性の確保へ
- ◎『フィリピンのココナツ農家の貧困土地所有制度、流通システムとの関係』
- ◎小津安二郎の色彩表現—『彼岸花』(1958)を例として
- ◎Yoko Ono in the 1960s: Words to Change the World
- ◎エレクトラの「死」—2012.グラーツ『エレクトラ』の演出について
- ◎現代美術の身体表象にみるジェンダーとアイデンティティ
- ◎公共圏に介入するアート：「公共性」と「敵対性」をめぐる

## 【学問領域】

日本、アメリカ、オセアニア、北・東南アジア、東欧・ロシア、欧州などを対象とした地域研究、歴史文化論、政治社会論、宗教文化論、表象文化学

## 【教員】

**青島陽子** 准教授  
歴史学、中東欧・ロシア史  
西欧近代の形成と拡大に関わる諸問題を、早期に近代化の変容を迫られたヨーロッパの東の周縁部・外延部から論じます。

**池上裕子** 准教授  
1945年以後の美術、現代アート、グローバル・モダニズム  
第二次世界大戦後のモダン・アートの展開を、アメリカと日本を中心に、歴史的・比較文化的な要因から研究しています。

**石田圭子** 准教授  
美学、芸術論、表象文化論  
私の研究テーマは、芸術と社会との関わり、とりわけ芸術と政治の関係について表象・思想史・歴史的観点から考察することです。

**板倉史明** 准教授  
映画学  
映画学の専門知識を基礎にして日本映画を研究しています。映画フィルムの保存や復元に関する活動も行っています。

**伊藤友美** 教授  
東南アジア地域研究、タイ、現代仏教、女性  
現代のタイで展開する仏教と社会運動、女性出家者、タイ華人の宗教を中心とした研究を行っています。

**井上弘貴** 准教授  
政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史  
19世紀末から20世紀のアメリカ合衆国の政治、社会、都市について、政治学と思想史の二つの方向から研究をおこなっています。

**岩本和子** 教授  
フランス語圏文学、芸術文化論  
フランス語圏（フランスやベルギー等）の文化芸術を中心・周縁概念、国家・民族・言語との関係、多文化共生の側面から考察します。

**王 柯** 教授  
中国近代思想史、中国の民族問題、民族主義と日中関係  
中国の民族国家思想、民族問題、日中関係、華僑と多文化社会形成等を通じてグローバル歴史の視点から中国の近代思想を問い直します。

**長 志珠絵** 教授  
日本近現代史、文化研究、ジェンダー史  
歴史学の研究者でジェンダー史研究も。主に戦前戦後の日本（ですので、植民地も含めます）で、文化的社会的事象を扱います。

**小澤卓也** 教授  
ラテンアメリカ近現代史、食のグローバル・ヒストリーズ  
中米のナショナリズムや先住民族について研究しつつ、この地域の特産品をキーワードとした世界史の構築を目指しています。

**辛島理人** 准教授  
経済史、文化政策、日本・東南アジア関係  
日本を結節点にして、アジア太平洋における国際文化交流を、脱植民地化、経済成長、冷戦といった視点から考えています。

**北村結花** 准教授  
比較文学、比較文化  
「近代における古典の受容」という観点から、多彩なメディアによる日本古典文学の翻案・翻訳について研究しています。

**窪田幸子** 教授  
文化人類学、先住民研究  
オーストラリアの先住民、アボリジニを中心に、国家と少数者の関係や社会的認知、権利の変化などを研究しています。

**昆野伸幸** 准教授  
日本の思想の歴史的研究  
おもに20世紀前半の時期における日本のナショナリズムと宗教（とくに神道）との関係について研究しています。

**坂本千代** 教授  
フランス文化学、フランス文学  
ジョルジュ・サンドやスタール夫人といった19世紀のフランス女性作家たちや、ジャンヌ・ダルクに関する研究を行っています。

**貞好康志** 教授  
東南アジア地域研究、人間・環境学  
インドネシアなど東南アジアの歴史や文化の研究。同時に、人類の未来に日本と東南アジアの経験や智慧をうまく活かす方策の探究。

**Yaroslav Shulatov** 准教授  
ロシア史、日本史、日露関係、国際関係史  
東アジアの国際関係、特に日露関係の過去と現在、政治外交から文化・経済まで、さまざまな側面を考察して研究しています。

**谷川真一** 教授  
社会学、現代中国研究  
現代中国の政治と社会について研究しています。特に文化大革命などの政治・社会運動、政治体制の変容などに関心を持っています。

**塚原東吾** 教授  
科学技術医学史、蘭学とEUテクノ政治学  
ケイタイが無かったら、キミの生活はどうなる？ 国際政治は「核」で動いている。文科系からそこに、「直球勝負」で挑むのだ！

**寺内直子** 教授  
民族音楽学、日本音楽史  
日本、アジア、欧米の音楽・芸能を研究しています。国や地域を越えてダイナミックに交流、変容する文化の動態を捉えます。

**遠田 勝** 教授  
比較文学、比較文化  
近代文学の比較文学研究

**西谷拓哉** 教授  
アメリカ文学、アメリカ映画  
アメリカ文学・映画作品を中心として、合衆国の多元的な文化状況や表現様式の独自性を研究しています。

**野谷啓二** 教授  
英米文学、キリスト教文化  
「私たち（日本）と彼ら（欧米）」との文化的相違（ものの考え方、行動・表現様式）を宗教信仰を切り口に考えています。

**萩原 守** 教授  
アジア史、アジア法制史  
研究テーマは清朝治下のモンゴル遊牧民の法制史です。しかし授業では、モンゴル、中国、シベリア、日本の近現代史を扱います。

**藤野一夫** 教授  
音楽文化論、文化政策、アートマネジメント  
文化芸術を社会に広め、コミュニケーション能力を高め、地域社会やコミュニティの再生に寄与する理論と実践に取組んでいます。

**松井裕美** 講師  
近現代西洋美術史、フランス美術史  
近現代フランス美術における前衛美術が、文学や科学、政治・社会と有していた関係性について、多角的に研究しています。

**松家理恵** 教授  
イギリス文学・思想  
18-19世紀のイギリス、特にロマン主義の文学・思想。主なテーマは、西欧近代における自然観の変化や共感能力としての想像力。



## グローバル社会動態プログラム

情報・資本・人・モノの活発な移動とともに社会が急速にグローバル化しているという現代的動態に焦点を当て、グローバル社会が直面する重要な諸課題を解決するために何が求められているのかを分析し、発信する能力を身に付けます。

### 【卒業論文の例】

- ◎電力システム改革の政治過程分析—震災以降の日本のエネルギー政策の検証
- ◎韓国における女性の軍隊への参加とその意味—軍事主義との関係
- ◎平和構築における教育の役割
- ◎セックスワークをめぐる検討—「性の二重基準」解体をめざして
- ◎ジェンダーにおける雑誌メディアの働きとは何か
- ◎性の違いとその越境
- ◎東アジア地域主義を巡る国際関係—日本と中国の東アジア構想
- ◎ドイツの国籍法改正におけるネーション理解の変化について
- ◎スウェーデン福祉国家における極右政党の大躍進と移民問題
- ◎国内における日本型エコツーリズムの考察
- ◎日本の外国人受け入れ政策の考察—互恵の共生関係に向けて
- ◎インドのカーストと留保政策による教育格差の是正

### 【学問領域】

文化人類学、社会思想史、比較政策論、移民・難民問題、国際政治学、現代社会理論、中東研究、メディア論、多文化政治社会学



### 【教員】

**青山 薫 教授**  
社会学、ジェンダー／セクシャリティ、移住・移民、調査方法論  
「男女」のような二分法を批判的に考察するという大テーマの下、性的マイノリティ、ケア・性労働、国境を越える移動を調査研究。

**市田良彦 教授**  
社会思想史、フランス現代思想  
おもにフランスをフィールドに、現代の哲学者や思想家が「社会」や「経済」をどのようなものと捉えてきたかを研究しています。

**上野成利 教授**  
政治思想・社会思想史  
理性と暴力、主体と権力、自由と公共性など、政治思想・社会思想史上の重要なテーマをめぐって、哲学的な考察を試みています。

**梅屋 潔 教授**  
社会人類学、文化人類学、民俗学、宗教学  
死霊、呪詛などを中心に、望ましくない現象がなぜ起こるのかという「災因論」と、その逆の「福音論」、呪詛と祝福の民族誌が私のテーマです。

**小笠原博毅 教授**  
カルチュラル・スタディーズ  
メディアとスポーツを「スペクタクル」をキーワードに連結させ、そこに現れる憎悪や差別に対峙する文化的技術を模索しています。

**岡田浩樹 教授**  
文化人類学、越境・多文化研究、宇宙人類学  
グローバル化に伴う移民・越境と多文化化の問題、また宇宙開発技術と社会・文化の関係に関しJAXAと共同研究を進めています。

**Gianluca Gatta 特命准教授**  
人類学、社会学、欧州地中海域の移民問題、難民と移民の主観性  
His research focuses on the socio-anthropology of migration, by exploring issues relating to silence and voice in the ethnography of migration; Europe's crises and racism; migrants' self-narration, participatory video and memories.

**齋藤 剛 教授**  
文化人類学、中東研究  
多様な宗教、民族の人々が混在する中東の一角をなすモロッコに暮らす人びとの生活、宗教、社会関係などについて研究しています。

**坂井一成 教授**  
国際関係論、EU研究、移民・難民問題  
EUと近隣諸国との関係について、地中海地域の移民・難民問題への対応を中心に研究しています。

**阪野智一 教授**  
比較政治学、現代イギリス政治  
政党政治を中心にイギリス政治の変容を研究しています。モデルとして理想化されがちなイギリス政治の脱神話化を目指しています。

**櫻井 徹 教授**  
法哲学  
移民・難民、貧困、人権侵害、テロ、内戦といった現代のグローバルな課題をいかに解決するかという問題に取り組んでいます。

**中村 寛 教授**  
国際政治、中東政治、平和・安全保障  
中東を主な事例に新興・途上国地域における国際政治を研究しています。途上国に適する紛争予防の政策を考えています。

**新川匠郎 講師**  
政治制度論、ドイツ語圏研究  
ドイツ語圏を中心に、経済政策や移民難民政策など各種政策が政治制度（選挙や議会）を介して決まる過程について研究しています。

**西澤晃彦 教授**  
社会学、貧困、社会的排除、都市  
貧困や社会的排除が人に及ぼすものを、アイデンティティ（自己イメージ）や社会関係のありように特に注目して議論してきました。

**安岡正晴 准教授**  
現代アメリカ政治、比較公共政策  
米国など先進諸国の政策（人種・移民、経済、教育、福祉、医療、税制、環境エネルギー、メディア政策など）を比較研究しています。

## グローバル・コミュニケーションプログラム

言語・感性によるコミュニケーションの可能性と問題点や、ICTを用いた多彩な情報の収集・分析・発信に関わる能力を育成し、これらの研究成果をグローバルな課題解決に活用する能力を身に付けます。

### 【卒業論文の例】

- ◎日本人の英語の可算名詞・不可算名詞の間違いから見た英語教育
- ◎スポーツ選手の第二言語習得に見る学習ストラテジーについて
- ◎海外における日本アニメの受容に関する比較研究
- ◎『赤毛のアン』の日本語訳における役割語について
- ◎課題非関連な顔刺激への注意捕捉と知覚負荷について
- ◎マインドワンダリング傾向と非注意性難聴の関連性について
- ◎オーストラリアにおける初等中等日本語教育とその問題点
- ◎乳幼児の言語獲得について—助詞の誤用の分析
- ◎集合知を利用したレシピの食感テクスチャー表現の研究
- ◎グルメサイトのためのジャンルマップ検索インタフェースのデザイン
- ◎匿名ソーシャルネットワークサービスにおけるコンテンツの拡散予測に関する研究
- ◎音声分析に基づく笑い声の自然さ及び合成手法に関する研究



### 【学問領域】

言語学、第二言語習得論、翻訳学、認知神経科学、感性コミュニケーション、ITコミュニケーション研究、ソーシャルコンピューティング、音声学、異文化コミュニケーション、認知心理学、情報科学、コミュニケーションデザイン

### 【教員】

**Aaron Albin 講師**  
言語学、音声習得  
実験的手法を用いて、言語の仕組みを研究しています。特に、第二言語学習者における発音の習得過程に焦点を当てています。

**大月一弘 教授**  
インターネットやICT利用方法の研究  
インターネットやICTの効果的な利用方法の検討、教育分野や様々な分野へのICTシステムの開発を研究しています。

**康 敏 教授**  
情報科学、教育工学  
情報通信技術の情報教育および外国語教育への応用に関してコミュニケーションの視点から研究・開発を行っています。

**清光英成 准教授**  
ソーシャル・コンピューティング、データ管理、教育情報システム、社会情報システム  
様々なデータを有効に利活用するための情報資料構成ならびにデータ管理、ソーシャル・コンピューティングの肯定的評価と社会還元。

**Cynthia Quinn 特任准教授**  
応用言語学  
応用言語学（特にL2ライティングにおけるコーパスを用いた参照）、L1とL2による作文の教授法、ジャンル分析、質的研究方法。

**小松原 哲太 講師**  
言語学、レトリック  
意味の柔軟性を生かしたことばの表現法に興味があり、認知言語学のアプローチから、比喩などのレトリックを研究しています。

**正田 悠 助教**  
認知科学、演奏科学  
音楽や会話等の広い意味での「コミュニケーション」において、感性情報がどのような役割を果たすのかを心理学的に調べています。

**巽 智子 講師**  
第一言語習得、心理言語学、言語学  
私たちはどのように言語を身に付けるのでしょうか？ 心理言語学的アプローチで、文法知識の習得のメカニズムを探っています。

**田中順子 教授**  
第二言語習得理論、応用言語学  
第二言語習得理論は、人が母語を習得した後で母語以外の言語を習得する際のプロセスやメカニズムについて研究する分野です。

**西田健志 准教授**  
コミュニケーションのユニバーサルデザイン  
異なる文化や性格を有する世界中の多様な人々が気持ちよく共存できる、ITを応用したコミュニケーション環境づくりを目指します。

**林 良子 教授**  
音声学、言語学、異文化コミュニケーション  
人間のことば（母語・外国語）の音声について、心理言語学、外国語教育、脳科学、言語障害学などの観点から分析します。

**藤濤文子 教授**  
翻訳理論  
翻訳を異文化間のコミュニケーションとして捉えて、読者や媒体等の要因によって文化差がどう表れるかを考えます。

**松本絵理子 教授**  
認知心理学、認知神経科学  
人間がどのようにして自分を取り巻く世界を認識して行動しているのかを、認知や注意を手がかりに研究しています。

**南本 徹 助教**  
言語学、歴史言語学、印欧語研究、古代ギリシア語研究  
主に古代ギリシア語（特に方言）の研究をしています。その裏で「人間の言語はどれくらい多様であり得るのか」を考えています。

**村尾 元 教授**  
社会システム科学、機械学習、データサイエンス  
機械学習や人工知能の技術を利用して、少数の個人から社会や国際関係までの様々な集団における現象やダイナミクスを分析します。

**森下淳也 教授**  
情報科学、マルチメディアデータ処理、データベース  
データベース。しかし「堅牢、完全」といった本来システムの持つべき特性に逆らい「曖昧、柔らか」なシステムを模索しています。



鶴甲第2キャンパス

# 発達コミュニティ学科

人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティ（多様な人々が協働する社会）を実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定します。

## 【プログラム選択】

社会エンパワメントプログラム / 心の探究プログラム  
 アクティブライフプログラム / ミュージックコミュニケーションプログラム  
 アートコミュニケーションプログラム

## 予想される進路

卒業後の進路として、自治体や企業における組織・人事戦略コンサルタント、家庭裁判所調査官、地域コミュニティ創生支援事業・人材育成事業の指導者、行政や自治体の専門職、健康関連企業での専門職、国際連合機関（ユネスコ、世界保健機関等）、大学院進学等が予想されます。

## 人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に取り組む人材を養成する

## 学びの特色

- 1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める
- 2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける
- 3 国内外の海外研修、フィールドワークを通じて実践力・応用力を鍛える

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。

		1年次		2年次		3年次		4年次					
教養科目	情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目		外国語	基礎教養科目	総合教養科目							
	GSP [p.6]	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学型GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース)		GSP演習科目(リフレクション)					
学部共通科目	基礎・発展科目	[学部共通] 基礎科目		[学部共通] 発展科目	[学部共通] 基礎科目	[学部共通] 発展科目							
		初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論	異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)	国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論	コミュニティ創成論	TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	Academic Communication(英) Academic Writing(英) Academic Communication(独、仏、中、露) Academic Writing(独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan	日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習	途上国農村地域開発論 English Presentation Skills English for Professional Purposes				
科目共通		発達コミュニティ概論	地域社会学	コミュニティ論	外国語実習、インターンシップ実習、フィールドワーク実習、		日本語文法基礎、実践日本語基礎、日本語・日本文化基礎演習						
学科専門科目	基礎・コア・展開科目	からだの構造と機能 運動の巧みさの科学 運動とこころの科学 加齢の認知心理学 心理学の基礎と歩み 創造の発想とプロセス 社会教育計画論 エスノミュージコロジー 音楽文化史 人とアート論 文化政策論 発達心理学(中・高) 心の発達と教育	社会エンパワメントプログラム	健康心理学 スポーツプロモーション論 ミュージックプロジェクト実践	社会調査法 身体表現論 ミュージックセラピー	障害共生教育論 コミュニティ・ジェンダー論 青年心理学	家族の発達と病理 加齢の社会心理学 人と音楽	コミュニティとメディア ライフコースの心理学 包括支援システム論	ヘルスプロモーション ファッション文化論 ESD実践	社会教育課題研究 (リスクコミュニケーション論、ボランティア学習論、 ジェンダー問題学習論、障害共生教育論、自然共生地域支援論)	心理学的援助支援	卒業研究	
			心の探究プログラム	心理学調査法 健康心理学 心理グローバルサーチ ミュージックセラピー	心理学統計法 心理学実験法 心理学観察法 生理心理学	深層心理学 発達アセスメント 青年心理学 臨床心理学	認知発達心理学 児童の発達と学習 初等学校教育相談 公認心理師の職責	心理面接論 家族の発達と病理 加齢の社会心理学 包括支援システム論	心理学研究実践 臨床投影法 心理テスト法 ライフコースの心理学	人格心理学 人格心理学演習 臨床心理学演習 中等学校教育相談	ESD実践 福祉心理学 司法・犯罪心理学 産業・組織心理学		心理学的援助支援 関係行政論
			アクティブライフプログラム	加齢の身体運動科学 環境保健学 スポーツプロモーション論 身体運動の文化史 身体表現論	障害共生教育論 心理学統計法 認知発達心理学 身体機能の適応 健康運動科学	身体運動のダイナミクス 運動方法学 精神生理学 公衆衛生学 身体マネジメント研究	トラック&フィールド実習 セーフティプロモーション論 加齢の社会心理学 自然体験活動実習 加齢の健康行動科学	スイミング& アクアティックスポーツ実習 コンテンプラリーダンス ボールゲームズ実習 包括支援システム論	コミュニティと音楽 身体運動科学実験 バイオメカニクス実験 JUDO実習 ジムナステクス実習	ヘルスプロモーション ESD実践 健康教育論 スポーツマネジメント スポーツコミュニティ形成論 社会教育課題研究(障害共生教育論)			
			ミュージックコミュニケーションプログラム	アートマネジメント論 サウンドデザイン ミュージックセラピー 身体表現論	障害共生教育論 人と音楽 声の表現	ミュージックセオリー& アナリシス シアトリカル・アート論	ピアノ演奏演習 民族音楽演奏演習 声楽表現演習 コンテンプラリーダンス	音楽集団活動論 声楽アンサンブル 器楽アンサンブル 包括支援システム論	コミュニティと音楽 音楽作品研究 ミュージックプロジェクト実践 日本文化交流論	声楽伴奏表現演習 邦楽歌唱法 邦楽器演奏法 社会教育課題研究(ボランティア学習論)	ESD実践		
			アートコミュニケーションプログラム	知覚と行為 アートマネジメント論 コミュニティと表象 空間造形論	絵画アート論 身体表現論 都市と建築の20世紀 絵画アート実践	グラフィックサイエンス 空間アート実践 絵画アート実践 コンテンプラリーダンス	近現代文化言説論 近現代モード論 近現代アート論 コミュニティと音楽	表象文化形成論 視覚文化論 包括支援システム論	コミュニティとメディア コミュニティと都市 ファッション文化論 アフォーダンス論演習	芸術批評演習 アートプロジェクト実践 幾何デザインと視覚伝達 社会教育課題研究(ボランティア学習論)	ESD実践		映像・メディア論演習

(注) 2021年度からカリキュラムが一部変更となります。

## 社会エンパワメントプログラム

社会の様々な局面で生じる課題に人々がコミットしてゆくための方法、対人支援やコミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、あらゆる人の多様なエンパワメントを通してグローバルな社会課題が解決される専門的方法論を身につけます。

### 【卒業論文の例】

- ◎学童保育における異年齢交流の意味と指導員のあり方に関する研究
- ◎企業出資型学生運営カフェで働くことと社会人基礎力の関係に関する研究
- ◎対抗的公共圏における空間性の展開と課題—相模原障害者殺傷事件後の公共圏形成に着目して
- ◎イベント企画と幸福感の相関性—自身の経験を通して
- ◎セクシャル・マイノリティの人々の生きづらさの要因とその克服—トランスジェンダー当事者の語りをたよりに
- ◎高等学校における「総合的な学習の時間」の課題と展望
- ◎エンハンスメントへの日本人の倫理観—優生思想受容の過程から見る
- ◎人はなぜ一発芸をするのか—人間形成及び場に与える影響に着目して
- ◎家族のつながりが生み出す要因についての研究—篠山市の灰小屋の伝承に着目して
- ◎マルチエージェントシミュレーション手法を用いた飲食店におけるノロウイルス感染モデルの作成

### 【教員】

**稲原美苗** 准教授  
ジェンダー理論、現象学、臨床哲学  
ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

**清野未恵子** 准教授  
自然共生社会、野生動物管理、ESD  
農山村地域の人と野生動物の共存を目指した研究実践を軸とし、持続可能な社会づくりのための人材育成に関する研究をしています。

**津田英二** 教授  
生涯学習論、障害共生支援論  
障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

**松岡広路** 教授  
生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論  
ESD推進の方法論（原理・システム）を、社会教育及び福祉教育・ボランティア学習の観点から考究しています。

**村山留美子** 准教授  
環境保健学、環境リスク学  
環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

**大田美佐子** 准教授 ※  
西洋音楽史、音楽美学  
文化的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

**岡崎香奈** 准教授 ※  
音楽療法、即興演奏  
即興的音楽療法の実践を元に、医療、福祉、教育現場などにおける音楽の臨床的活用と「人間の音楽行為」について研究しています。

**平芳裕子** 准教授 ※  
表象文化論、ファッション文化論  
イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

**吉田圭吾** 教授 ※  
臨床心理学、スクールカウンセリング  
中等教育学校におけるスクールカウンセリング、リストカットや盗み・暴力への対処法及び自死遺族相談について研究しています。

※他プログラムとの兼任

## 心の探究プログラム

人々の心の発達の諸相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身につけます。

### 【卒業論文の例】

- ◎障害幼児をもつ親の子ども親が求める療育内容及びその影響
- ◎対人不安と完全主義、自己意識、他者意識との関連
- ◎質問紙法およびロールシャッハ法から見る現代の娘が抱く父親像
- ◎小学生の学校適応感と発達障害のある子・気になる子への関わり方の関連の検討
- ◎自己愛的甘えにおける対人ストレスイベントへの認知処理とコーピング選択
- ◎青年の過剰適応に影響を及ぼす要因について
- ◎青年期における劣等感が意欲や努力につながるプロセスと影響要因についての検討
- ◎演劇経験と個人の特性及びスキルの関連—共感性とコミュニケーション・スキルに着目して
- ◎音楽と映像のリラクゼーション効果—パーソナリティ特性との関連
- ◎介護福祉分野におけるバーンアウトと感情労働、及び「巻き込まれ」の関連

### 【教員】

**相澤直樹** 准教授  
臨床心理学、臨床心理検査（投影法）  
青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について研究しています。

**安達友紀** 助教  
臨床心理学、慢性痛  
臨床心理学の立場から慢性痛をもつ人のより良い理解と支援について研究しています。集学的治療、認知行動療法、催眠等がテーマです。

**伊藤俊樹** 准教授  
臨床心理学、芸術療法  
芸術療法や心理療法におけるクライアントのイメージの変化、ロールシャッハテストを用いた芸術家の創造性に関する研究を行っています。

**加藤佳子** 教授  
健康心理学、健康教育  
心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、wellbeingの向上を目指しています。

**河崎佳子** 教授  
臨床心理学、発達臨床心理学  
聴覚障害児の心理発達と家族支援に関して実践研究を重ねてきました。また、被虐待児童への心理的ケアについて取り組んでいます。

### 【学問領域】

臨床心理学、芸術療法、スクールカウンセリング、臨床心理検査法、発達臨床心理学、生涯発達心理学、睡眠心理学、教育心理学、人格心理学、健康心理学等



**齊藤誠一** 准教授  
生涯発達心理学、思春期心理学、災害心理学  
思春期の身体発達・性的成熟が当の青年及び親・友人など周囲の人間に与える心理的影響に関して研究しています。

**坂本美紀** 教授  
教育心理学  
児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

**谷冬彦** 准教授  
人格心理学  
青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

**鳥居深雪** 教授  
発達障害臨床学  
発達障害などの特別なニーズのある子どもへの包括的支援について、心理、教育、福祉、医学等、学際的に研究しています。

**林創** 准教授  
発達心理学、教育心理学  
幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

**古谷真樹** 准教授  
睡眠心理学、生理心理学、健康心理学  
心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

**山根隆宏** 准教授  
発達臨床心理学、発達障害児家族支援  
発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

**吉田圭吾** 教授  
臨床心理学、スクールカウンセリング  
中等教育学校におけるスクールカウンセリング、リストカットや盗み・暴力への対処法及び自死遺族相談について研究しています。



## アクティブライフプログラム

人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、心身の健康やエイジング、運動行動、スポーツ活動などについて原理や方法を理解・分析する基礎的能力や創造的・実践的な専門的能力を身につけます。

### 【卒業論文の例】

- ◎ 成長期における食行動と心身の健康との関連性
- ◎ 高齢者における歩行過渡期の歩行特性
  - 移動する床面からの歩行に着目して
- ◎ 認知バイアスと感情調整に年齢が及ぼす影響
- ◎ 社会的ネットワークが高齢者の運動習慣に及ぼす影響
- ◎ 新しい男性役割と結婚・恋愛に関する調査研究
- ◎ 季節変化がヒトの発汗機能に及ぼす影響
- ◎ 弾性負荷の違いが筋活動特性に与える影響
- ◎ 異なる速度での疾走が脚動作及び足の接地状態に及ぼす影響
- ◎ 生理学的指標を用いたフットサル審判員の判定精度に関する研究
- ◎ 長期的なビタミンD摂取が黄体期のレジスタンス運動による免疫反応に与える影響
- ◎ 大学運動選手における心理的成熟の契機となった経験に関する研究
- ◎ 生涯スポーツイベントが開催地に及ぼす地域活性化効果
- ◎ 女子サッカー日本代表の誕生

### 【教員】

秋元 忍 准教授

体育・スポーツ史

19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特徴を、歴史学的方法により解明します。

石原 暢 助教

応用身体運動科学

子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

岡田修一 教授

高齢の身体運動科学

高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。

片桐恵子 教授

社会心理学、社会老年学

超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

河辺章子 教授

運動生理学（身体運動制御）

随意運動の制御機構を探求し、ヒトの動作の巧みさを探るとともに、巧みな動作の獲得過程を解明し、スキル向上への貢献を目指しています。

木村哲也 准教授

身体運動システム論

運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

### 【学問領域】

生活習慣と心身の健康、社会心理学、社会老年学、加齢の健康行動科学、加齢の認知心理学、加齢の身体運動科学、応用生理学、運動生理学、運動生化学、スポーツ技術論、運動心理学、スポーツ社会学、体育・スポーツ史 等



近藤徳彦 教授

応用生理学、運動生理学、環境生理学

物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤幸治 准教授

スポーツ生理・生化学

運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行なっています。

高田義弘 准教授

運動生理学（身体コンディショニング）

競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響について研究しています。

高見和至 教授

運動心理学

「運動習慣の心理のプロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探求しています。

長ヶ原 誠 教授

スポーツ振興論、国際スポーツ文化論

国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探求しています。

中村晴信 教授

公衆衛生学、行動医学、生理人類学

生活習慣と疾病予防・健康増進との関係を、体格・体組成や食行動に着目し、心理・生理・行動面から総合的に研究しています。

原田和弘 准教授

老年行動学、健康スポーツ論

身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを目指し、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田正登 教授

スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、

スポーツ工学

スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本康平 准教授

認知心理学、高齢者心理学

世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。

古谷真樹 准教授 ※

睡眠心理学、生理心理学、健康心理学

心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

村山留美子 准教授 ※

環境保健学、環境リスク学

環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

※他プログラムとの兼任

## ミュージックコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

### 【教員】

大田美佐子 准教授

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

岡崎香奈 准教授

音楽療法、即興演奏

即興的音楽療法の実践を元に、医療、福祉、教育現場などにおける音楽の臨床的活用と「人間の音楽行為」について研究しています。

谷 正人 准教授

民族音楽学、イラン伝統音楽

イラン音楽を題材に、即興・オリジナリティ概念を、またサントゥール演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

津田英二 教授 ※

生涯学習論、障害共生支援論

障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

田畑暁生 教授 ※

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

野中哲士 教授 ※

認知科学、生態心理学

わがが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

※他プログラムとの兼任



### 【学問領域】

音楽療法、音楽文化史、民族音楽学、即興など演奏法・演奏論、音楽美学、音楽教育、音楽社会学、音楽理論

### 【卒業論文の例】

- ◎ 認知症高齢者の回想音楽療法における選曲
- ◎ 入院児童対象の音楽療法—「音楽で遊ぶ」ことの意義と役割
- ◎ 浅草オペラの地域受容—上演記録を通じて
- ◎ 戦前日本におけるモーリス・ラヴェル受容
  - 『音楽新潮』特集記事の分析を中心に
- ◎ 『ミカド』上演演出の変容を探る—「イエローフェイス」問題の考察から
- ◎ 関西における交響楽の受容史
  - 宝塚交響楽団の理念と活動の考察から
- ◎ 民謡「バダエノレ」に至る朝鮮民主主義人民共和国独自の民謡継承に関する考察—3部形式の成り立ちを中心に
- ◎ 「交わった」芸能のアイヌ文化理解における有用性
  - 「アイヌ神楽」を起源に持つ「厚岸かぐら」を例に

## アートコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化芸術の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、美術の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

### 【教員】

梅宮弘光 教授

近代建築史

近代建築史、都市史。日本の近・現代に、人びとが建物や街についてどんなことを考え、何をつくってきたのかを探っています。

岸本吉弘 教授

絵画の創作と研究

近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

関 典子 准教授

舞踊学、コンテンポラリーダンスの

創作と研究

舞踊は身体や動きという儚いものを媒体とする芸術です。その現在性にとどまり、表現・研究活動の両面から探究しています。

田畑暁生 教授

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

野中哲士 教授

認知科学、生態心理学

わがが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

平芳裕子 准教授

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。



### 【学問領域】

舞踊学、美術・彫刻、絵画表現、近代建築史、感性科学、ファッション文化論、社会情報学、認知科学

### 【卒業論文の例】

- ◎ 舞踊表現における共有感に関する考察
- ◎ 神戸のファッション文化の発展
  - 紳士服からニュートラ、神戸系ファッションまで
- ◎ 振付創作プロセスにおけるコンテンポラリーダンス作品の変容
  - 環境との関係に着目して
- ◎ 音楽聴取と想起される図形イメージの関連性について
  - 音楽の音色と調性を中心に
- ◎ 観光政策によって形成される都市イメージに関する研究
  - 1930年代の神戸市を事例として

# 環境共生学科

人間と環境の調和に根ざす持続可能なグローバル共生社会の実現を目指し、身近な環境から地球環境に至る幅広い環境について、様々な問題を発見・立論し、解決に導くために必要な能力を有し、さらに、国際的な視野から課題に取り組む行動力を身に付けた人材を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、環境の成り立ちを解析し、課題を発見・立論するために必要な基礎科学の専門教育を行う「環境基礎科学」、環境改善のための技術・システム、政府・自治体の政策、教育と市民参加、企業・NPO・NGO等の活動に関する専門教育を行う「環境形成科学」という2本の柱を設定しています。

## [プログラム選択]

- 環境自然科学プログラム
- 環境数理学プログラム
- 生活共生科学プログラム
- 社会共生科学プログラム

## 予想される進路

卒業後の進路として、環境保全、都市開発、街づくり、農村計画、防災政策などに携わる国家・地方公務員、インフラ、エネルギー、ディベロッパー、各種メーカーなどの企業、NPO、NGO、中学校・高等学校教員、大学院進学等が予想されます。

## グローバル共生社会を支える環境を創り出す文理融合型人材を養成する

## 学びの特色

- 1 広い基礎知識を学び、  
学びの方向を定める
  - 2 教育プログラムを通して、  
高い専門性を身に付ける
  - 3 海外研修、フィールドワークを通して、  
エキスパートとしての  
実践力・応用力を鍛える
- 1年次は、概論等の講義を通じて環境共生学についての幅広い基礎知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。
- 2年次には、各自の関心や将来の進路など目的に応じて、4つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。
- 専門科目の受講に加え、国内外でのフィールドワーク、多彩な調査、最先端の科学実験などにより高度な専門性を身に付けると同時に、多様な環境改善プロジェクトやNPO・NGO等の環境関連活動への参加を通じて、実践的な問題解決能力を培います。

		1年次		2年次		3年次		4年次			
教養科目	情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目		外国語	基礎教養科目	総合教養科目					
	GSP [p.6]	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学型GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース)		GSP演習科目(リフレクション)			
学部共通科目	基礎・発展科目	[学部共通] 基礎科目		[学部共通] 発展科目	[学部共通] 基礎科目	[学部共通] 発展科目	Academic Communication (英)	日本語コミュニケーション	途上国農村地域開発論		
		初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論	異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンバワメント論 国際開発援助論(JICA)	国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論	コミュニティ創成論	TOEIC演習 イタリア語入門 コア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	Academic Writing (英) Academic Communication (独、仏、中、露) Academic Writing (独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan	日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習	English Presentation Skills English for Professional Purposes		
科目共通		環境共生学概論	地球環境学	外国語実習、インターンシップ実習、フィールドワーク実習、		日本語文法基礎、実践日本語基礎、日本語・日本文化基礎演習					
学科専門科目	基礎・コア・展開科目	プログラム選択	環境自然科学プログラム	環境物理学 環境物質科学 環境生命科学 環境地球科学 環境基礎科学実験	統計的問題解決法 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 数理科学入門 数理科学基礎	宇宙環境物理学 環境無機化学 環境数値解析 大気環境学	環境インフォマティクス 生物多様性科学 環境資源植物科学 スマート・ライフサイエンス	生態学 環境生命化学 環境生理学 分子生物学 野外生物学実習	環境応用科学実験 環境基礎物理学 地球環境物理学 環境地球化学 環境高分子化学	地球環境変動史 環境基礎科学演習 多変量解析 実験計画法	環境物理学特別演習
			環境数理学プログラム	数理科学基礎 数理科学入門 統計的問題解決法 計算機科学入門	数理モデルプログラミング 環境物理学 環境物質科学 環境生命科学	環境地球科学 環境社会学 公害・環境史	環境数値解析 アプライアンス環境論	環境システム設計論 環境インフォマティクス	数理科学研究 複雑系の幾何学 多変量解析 実験計画法	計算代数 環境モデル解析 環境基礎科学演習 情報数理	卒業研究
			生活共生科学プログラム	環境経済学 グローバル都市地域論 地域環境資源論 生活空間計画論	緑地環境論 高齢者環境論 こども環境論 環境社会学	公害・環境史 ライフスタイル論 環境システム設計論 合意形成プロセス論	アプライアンス環境論 スマート・ライフサイエンス 環境政策論 地域景観生態論	衣環境論 食環境論 住環境論	福祉環境システム論 地域空間システム論 地域社会共生論	環境形成科学調査法 環境形成科学実験 環境形成科学演習 環境形成科学実習	
			社会共生科学プログラム	地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論	高齢者環境論 こども環境論 環境社会学 環境思想史	公害・環境史 環境経済学 グローバル開発政策論 グローバル都市地域論	環境政策論 地域景観生態論	社会環境変動史 社会文化環境論 グローバル平和論 グローバル経済環境史 環境法	国際環境法 労働環境史 地域空間システム論 地域社会共生論 地域復興政策論	福祉環境システム論 フィールドワーク実習 環境形成科学演習	

(注) 2021年度からカリキュラムが一部変更となります。

## 環境自然科学プログラム

地球規模の環境問題を引き起こす多様な要因や問題が顕在化するまでの複雑なメカニズムを解明し、解決策を提案するために、自然の成り立ちや法則の理解を基礎として、フィールドワーク・科学実験・データ解析などの調査・分析・解析手法について学びます。

### [卒業論文の例]

- ◎植物の3次元高感度イメージングに関する研究
- ◎農業生態系における生物多様性の維持機構の解明
- ◎マヤサンオサムシの地理的変異と生殖隔離
- ◎環境DNA分析を用いた希少生物の分布調査
- ◎CO<sub>2</sub>固定酵素ルビスコの機能解析と光合成改良への応用研究
- ◎あらゆるウイルスと結合する人工核酸の合成
- ◎振動分光法を用いた生分解性高分子の構造と物性に関する研究
- ◎生命の起源のシミュレーション
- ◎最終氷期以降の北太平洋における海洋環境変遷の研究
- ◎地球惑星環境における氷物質の物性
- ◎宇宙から飛来するガンマ線の観測
- ◎月周回衛星「かぐや」観測による月面ガス放出の研究

### [学問領域]

環境物理学、物質環境、地球環境、生物環境



### [教員]

#### 青木茂樹 教授

素粒子・宇宙線物理学  
ニュートリノ振動実験や宇宙ガンマ線の観測などの研究をしています。

#### 蘆田弘樹 准教授

光合成科学、生化学、分子生物学、生物工学  
植物、藻類、微生物の光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産へ応用する研究を行っています。

#### 伊藤真之 教授

宇宙物理学、科学教育  
人工衛星等による観測に基づく宇宙の研究や、科学技術領域における市民のエンパワーメントに関する実践研究等を行っています。

#### 丑丸敦史 教授

植物生態学、生物多様性科学  
花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

#### 江原靖人 准教授

生物有機化学  
生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

#### 大串健一 教授

地球環境、環境地学  
地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。

#### 近江戸 伸子 教授

環境資源植物バイオテクノロジー  
環境資源植物を対象に新機能の開発、遺伝特性、環境適応についてのゲノム・染色体・遺伝子研究を行っています。

#### 窪田 薫 助教

古気候・古海洋学、炭素循環  
海洋生物の殻や骨格に保存される微量元素や安定/放射性同位体から過去の情報を引き出して、気候変動・海洋環境・炭素循環を研究しています。

#### 佐藤春実 教授

高分子化学、高分子振動分光学  
環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究を行っています。

#### 高見泰興 准教授

進化生態学  
昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

#### 田中成典 教授

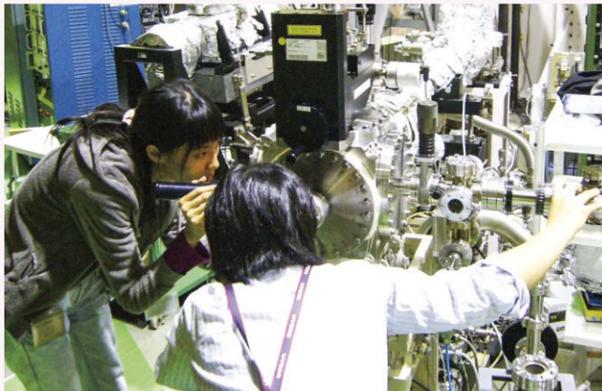
計算生物学、理論生命科学  
タンパク質や核酸等の分子シミュレーションやマイクロな原子レベルから計算機上で構築する理論生命科学について研究しています。

#### 谷 篤史 准教授

地球惑星科学、物理化学、物性物理学  
物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることで、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

#### 源 利文 准教授

環境生理学、水域生態学、感染症生態学  
環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。



## 環境数理科学プログラム

環境に潜む様々な現象を数理的な手法で解明し、人間と環境のよい共生関係を論理的かつ緻密にデザインするために、数理科学に関する基礎知識を身に付け、諸問題に対する新しい分析方法について学びます。

### [卒業論文の例]

- ◎連続ドラマ視聴率の解析
- ◎保険数理における信頼性理論
- ◎微分方程式モデルによる社会事象の分析
- ◎インフルエンザによる学級閉鎖の基準制定の影響
- ◎倒産企業の統計的分析
- ◎数理モデルを用いた保険料の算定
- ◎スマートデバイスに対応した数学アプリケーションの開発
- ◎チューリングマシンと計算量のクラスについて
- ◎高等学校数学科におけるICTの活用
- ◎ゲーム理論とナッシュ均衡
- ◎サッカーの攻撃手法に関する統計的分析
- ◎バスケットボールの試合運びの特徴分析

### [教員]

#### 稲葉太一 准教授

数理統計学、応用統計学、データ解析  
統計手法は、適用分野によって異なる側面があります。医学統計の分野における多重比較法の適用範囲を広げる事を研究しています。

#### 桑村雅隆 教授

応用解析学  
物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

#### 阪本雄二 准教授

数理統計学  
株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

#### 長坂耕作 准教授

計算機代数、計算機科学  
パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や他分野への展開について研究しています。

#### 宮田任寿 教授

幾何学的トポロジー  
Shape理論（局所的に複雑な空間への幾何学的なアプローチの方法）、距離空間の幾何学性質（次元など）について研究しています。



## 生活共生科学プログラム

日常生活における人と人、人と環境のよりよい共生関係をデザインするために、フィールドワーク、各種調査、科学実験の基礎的な技能を身に付け、幅広い問題を発見・立論するとともに、課題解決に向け、実践的な技術開発、環境設計、政策立案について学びます。

### 【卒業論文の例】

- ◎ 中高年単身者の生活空間に関する研究
- ◎ 都市再開発における社会的批判のコントロールに関する研究
- ◎ ジェンダーの視点からみた高齢期の生活空間
- ◎ 環境未来都市構想に関する取組の効果と課題の検証
- ◎ 超高齢社会の進展が自治体ごみ処理システムにおよぼす環境的影響の評価
- ◎ グリーン・コンフリクトを考慮した太陽光発電所の包括的評価
- ◎ 兵庫県における森林資源のエネルギー利用可能量の推計
- ◎ 六甲山の景観保全に対する観光客の支払意思額の評価
- ◎ 自然型再開発リゾート施設の評価と可能性
- ◎ 都市緑地における生物多様性オン経済価値評価
- ◎ 窒素投入量がやぶきた茶葉中のカテキン・カフェイン含量に及ぼす影響
- ◎ 圧力センサを用いた姿勢・行動判別システムの構築
- ◎ 低コストで使い捨てが可能な気圧センサを用いた呼吸の簡易検出
- ◎ 繊維組成の異なる編布の物理特性と風合い
- ◎ ウェアラブル端末が着心地に及ぼす影響

### 【学問領域】

ライフスタイル論、環境共生システム、生活空間、生活資源



### 【教員】

#### 井上真理 教授

##### 衣環境学、感性工学

人の主観的な感覚と材料特性から繊維製品を実験的、理論的に解析し、心地よく使える製品を設計し提案する研究を行っています。

#### 大野朋子 准教授

##### 緑地環境学、造園学

人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関わる研究をしています。

#### 佐藤真行 教授

##### 環境経済学

環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

#### 白杉直子 教授

##### 食環境学

食生活が生み出す環境問題（台所排水の汚濁負荷、肥料による地下水の窒素汚染）に関する研究や食品成分からみた味覚研究を行っています。

#### 田畑智博 准教授

##### 環境システム工学（土木工学）

私達の生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

#### 平山洋介 教授

##### 生活空間計画

住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか、という問題を理論と実証の双方から考えています。

#### 福田博也 准教授

##### 生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス

人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

## 社会共生科学プログラム

文化・政治・経済・社会・地域等における様々な対立を乗り越えるために、グローバル社会における共生のあるべき姿を考えます。身近な環境からグローバルな環境に至る様々な課題を発見し、その原因と解決について学びます。国内外でのフィールド調査・文献調査を通して、実践力を身に付けます。

### 【卒業論文の例】

- ◎ フランスにおける積極的差別是正措置—女性・移民・共和制原理
- ◎ 性的マイノリティに関する意識・受容について—日本とフィリピンの大学生の比較研究
- ◎ 冷戦崩壊後の平和意識の変遷
- ◎ アメリカにおける政治と宗教の関連性キリスト教と人種差別、現代戦争を事例に
- ◎ 街における自己表現としてのファッション—神戸を事例に
- ◎ 仕事と育児のバランス—女性の就業選択と育児休暇制度の課題
- ◎ 文化資本格差によって生じる子どもの将来選択の不公平について—読書文化資本を手がかりに学力格差是正を試みる
- ◎ アーバン・ツーリズムの回遊性に関するツーリストのバス分析—神戸を事例に
- ◎ C.レヴィ=ストロースの思想から考える、「構造」と史的唯物論の相補関係
- ◎ 台湾における日本統治時代の神社建築再建の要因—台東県鹿野郷の鹿野神社復元活動を事例として
- ◎ 働き方改革の後押しされるフリーランスの現状と可能性
- ◎ フィリピンにおける頭脳流出防止策の展望—民間主導の雇用機会創出の取り組み
- ◎ ディズニー・プリンセス映画におけるヒロインの生き方、幸福観の変化について
- ◎ 食料自給率から捉えた現代日本の農業政策—「生産」から「供給」、「成長」への変容
- ◎ 大都市圏内駅前の再開発における新たな郊外の生産と場所イメージの転換—阪急西宮北口・JR尼崎を事例に

### 【教員】

#### 浅野慎一 教授

##### 社会文化環境論、社会学

国境を越えて移動する人々を対象として、歴史に翻弄されながらも、新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。

#### 井口克郎 准教授

##### 社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題

社会保障制度を必要とする人々とそれになう専門職ら双方の人権が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

#### 岩佐卓也 准教授

##### 社会政策

労働をめぐるルールとそれを形成する労使関係がどのように変容しているのか、日本とドイツを主な対象に研究しています。

#### 太田和宏 教授

##### 途上国政治経済

グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

#### 澤 宗則 教授

##### 人文地理学、地域社会論、移民社会論

日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

#### 橋本直人 准教授

##### 社会思想、社会学史

現代社会の根底にある考え方を探るために、社会理論の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

#### 原 将也 助教

##### 地域研究、地理学

おもにアフリカ農村を対象として、社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人びとの暮らしを住民の視点から研究しています。

### 【学問領域】

国際関係論、途上国開発論、社会文化環境論、地域社会論、労働環境論、福祉環境論、社会環境思想論



# 子ども教育学科

次世代育成を通じたグローバル共生社会の実現を目指し、グローバル社会に関わる幅広い視野を持ちながら、子どもと学校が抱える課題を多面的に認識し、実践的に解決していく能力を身に付けた初等教育教員等を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、初等教育を構成する「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースを設け、世界と日本の学校教育、国際文化理解教育など、グローバル共生社会の実現に向けた教育の現状と課題について理解を深めた後、コースごとの体系的な教育研究を行います。

- 【コース選択】  
 学校教育学コース  
 乳幼児教育学コース

## 予想される進路

卒業後の進路として、小学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員、公務員（教育行政職）、国際教育機関（ユネスコ等）、教育関連企業、大学院進学等が予想されます。

## 現代社会の文化的多様性を尊重した子ども教育に取り組む人材を養成する

## 学びの特色

- 1 幅広い基礎知識を得て方向性を  
選択する
  - 2 コースごとの学修を通して、  
高い専門性を身に付ける
  - 3 理論と実践の往還を通して、  
エキスパートとしての  
実践力・応用力を鍛える
- 1年次は、概論等の講義を通じ、未来のグローバル共生社会を創り出す子どもの教育について原理的諸側面と教科的諸側面を中心に、多角的な知見と探究方法論を修得し、基礎的な能力を身に付けます。同時に、幅広い専門科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。
- 将来の進路など目的に応じて、2つのコースから1つのコースを選択します。それぞれのコースで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。
- 大学での専門科目の受講によって身に付けた高度な専門性を、附属学校園を含む国内外の学校現場での教育実習やインターンシップの経験と連関させ、初等教育教員としての実践的指導力、子どもの教育を学問的に探究するための研究能力を鍛えます。

		1年次		2年次		3年次		4年次			
教養科目	情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目		外国語	基礎教養科目	総合教養科目					
	GSP [p.6]	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習		GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学期GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース)		GSP演習科目(リフレクション)			
学部共通科目	基礎・発展科目	[学部共通] 基礎科目		[学部共通] 発展科目		[学部共通] 基礎科目		[学部共通] 発展科目			
		初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論	異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)	国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論	コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	Academic Communication(英) Academic Writing(英) Academic Communication(独、仏、中、露) Academic Writing(独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan	日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習	途上国農村地域開発論 English Presentation Skills English for Professional Purposes			
		外国語実習、インターンシップ実習、フィールドワーク実習、		日本語文法基礎、実践日本語基礎、日本語・日本文化基礎演習							
科共通	子ども教育学概論 保育原理(世界と日本の乳幼児教育)	教育原理(世界と日本の学校教育)		国際文化理解教育論		子ども教育学演習		子ども教育学演習			
	基礎・コア・展開科目	学校教育学コース	乳幼児教育学コース	プログラムの選択	教職論(小) 教師入門 教育経営学(幼・小) 発達心理学(幼・小) 初等算数論 初等図工論 乳幼児心理学 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 乳児心理学演習 観察実習I	児童の発達と学習 教育行政学(幼・小) 初等カリキュラム論 初等道德教育論 初等教育方法論 初等国語科教育論 初等理科教育論 初等生活科教育論 初等算数科教育論 初等音楽科教育論 初等体育論	初等図工科教育論 初等体育科教育論 初等英語教育論 初等国語論 初等生活科論 初等理科論 初等音楽論 初等理科論 初等家庭科論 学校インターンシップI 観察実習II	初等英語論 日本教育史 発達障害心理学 臨床発達支援学 障害とリハビリテーション 障害児発達学 グローバル教育演習(教育行政学) グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(科学教育) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(教育史学)	初等特別活動指導論 初等生徒指導論(進路指導を含む) 初等社会科教育論 初等家庭科教育論 初等学校教育相談 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII 科学教育実践研究 総合的学習の指導法(小)	比較教育システム論 西洋教育思想史 比較教育政策論 乳幼児と健康 グローバル教育文献演習 社会認識実践研究 乳幼児と環境 数理認識実践研究 英語科実践研究 特別支援教育入門(幼・小) 特別支援教育総論	発達障害と共生社会 発達障害教育論 知的障害支援学 障害児支援学概論 肢体不自由児教育論 乳幼児と言葉 乳幼児と表現(音楽) 乳幼児と表現(造形) 乳幼児と人間関係 支援教育臨床学
初等図工科教育論 初等体育科教育論 初等英語教育論 初等国語論 初等生活科論 初等理科論 初等音楽論 初等理科論 初等家庭科論 学校インターンシップI 観察実習II					幼児心理学演習 グローバル教育演習(教育行政学) グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(科学教育) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(教育史学) 子どもと家庭	乳幼児教育内容・方法論 乳幼児理解と教育相談 子どもの保健と健康 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII 科学教育システム論 西洋教育思想史	比較教育政策論 乳幼児と健康 グローバル教育文献演習 科学教育実践研究 社会認識実践研究 乳幼児と環境 数理認識実践研究 英語科実践研究 初等学校教育相談	乳幼児と言葉 乳幼児と表現(音楽) 乳幼児と表現(造形) 乳幼児と人間関係 社会的養護 特別支援教育入門(幼・小) 障害児保育演習 子ども家庭支援論 発達障害教育論	教職実践演習(幼・小) 学校インターンシップIII 教育・保育実践演習(乳幼児教育) 社会的養護内容演習		

(注) 2021年度からカリキュラムが一部変更となります。

卒業研究

## 学校教育学コース

主に教育学、教科内容・指導論、心理学の専門性に基づいて、義務教育の基盤である小学校を中心とした教育理念、制度、教育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、インクルーシブ教育の観点から、障害のある子どもに対する特別支援教育に関する教育研究を行います。

### [卒業論文の例]

- ◎現代米国における教員養成機関に対する評価制度  
—教員養成ア krediteーションの最新動向と課題に焦点を当てて
- ◎戦後総合学習の研究  
—中央教育制度検討委員会・中央教育課程検討委員会の報告書に着目して
- ◎自閉スペクトラム症児と担任教師の信頼関係の在り方について
- ◎主権者を育てる歴史の授業—小学校歴史授業「源平選挙戦」の開発を通じて
- ◎空間認識能力を育む活動について—空間図形の学習におけるICTの活用
- ◎求差型減法のつまずきの分析  
—1対1対応づけの難しさ、『多い』という言葉の難しさに着目して
- ◎科学技術の社会問題を取り上げた教育プログラムのための教材の開発と評価
- ◎小学校高学年ゴール型ゲームにおける作戦とゲームパフォーマンスの関係
- ◎小学校道徳教科書におけるジェンダーの描かれ方についての研究
- ◎小学校における生活綴方の「読み合い」による  
子どもの自己肯定感の涵養について
- ◎日本における保護者の学校参加論の再検討  
—ペアレントクラシナーの理論と米国の動向を手がかりとして
- ◎学習科学のためのオープンエデュケーション  
—NAPLeS Webinar Seriesの事例
- ◎子どもの貧困と学習支援：普遍的制度と選別的制度に着目して

### [学問領域]

学校教育学、教育内容・指導論、特別支援教育学、障害児支援学



## 乳幼児教育学コース

主に教育学、保育内容・指導論、心理学の専門性に基づき、生涯にわたる人格形成の基盤である乳幼児期を中心とした教育理念、制度、保育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、幼小連携教育の観点から、小学校教育の内容と方法等に関する教育研究を行います。

### [卒業論文の例]

- ◎乳幼児期の非認知的能力の育ちをとらえる方法に関する研究
- ◎沖縄県の保育者のワークフォースに関する研究
- ◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を用いた保育の評価観点の作成
- ◎科学絵本のナラティブに関する研究—「かがくのとも」を事例として
- ◎障がい者が描かれた絵本の分析—知的障がい・発達障がいに着目して
- ◎自称詞の使用意識の発達の変化と仲間関係
- ◎模倣を通した学びについての研究—4歳児の生活場面の観察
- ◎偏食のある自閉スペクトラム症児に対する指導について
- ◎動物園におけるICTを利用した体験学習の評価—ヤマメコを事例にして
- ◎子どもの造形活動に対する親の関わりの変化  
—美術館ワークショップの調査をもとに
- ◎日本における子ども部屋の变化  
—西洋における近代的家族間の日本的授業の観点から
- ◎子どもの権利擁護のための相談・救済の取り組み  
—川西市子どもの人権オンブズパーソンに着目して
- ◎支援の届きにくい家庭に着目した訪問型アウトリーチ支援の展開と課題  
—国内一市一町と英国の調査を踏まえて

### [学問領域]

乳幼児教育学、保育内容・指導論、乳幼児心理学



### [教員]

**赤木和重** 准教授  
発達障害心理学  
自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

**稲垣成哲** 教授  
科学教育  
科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインについて研究しています。

**岡部恭幸** 教授  
数理認識論、数学教育  
算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

**奥山和子** 講師  
日本語教育、留学生教育、異文化間教育  
留学生や外国人児童の日本での適応やキャリア形成の問題、また日本人学生の海外留学研究など異文化に関わる研究をしています。

**川地亜弥子** 准教授  
教育方法学  
人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

**北野幸子** 准教授  
乳幼児教育学、保育学  
乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

**木下孝司** 教授  
発達心理学  
乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。



**国土将平** 教授  
身体発育発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定  
子どもの身体の発達や健康、体力、運動能力・動作の発達を理解し、それらに影響を与える教育や生活環境との関係を探っています。

**勅使河原 君江** 准教授  
美術・造形教育  
美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

**鳥居深雪** 教授  
発達障害臨床学  
発達障害などの特別なニーズのある子どもへの包括的支援について、心理、教育、福祉、医学等、学際的に研究しています。

**中谷奈津子** 准教授  
保育学、家族関係学  
認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

**長谷川 諒** 特命講師  
音楽教育学、音楽教育哲学  
サウンドペインティングと呼ばれる即興演奏に注目し、既成の美の基準に囚われずに音楽することの意義について研究しています。

**船寄俊雄** 教授  
日本教育史、教育学  
明治維新以降のわが国における小学校教員の歴史、小学校教員と中学校教員の養成制度の歴史を研究しています。

**目黒 強** 准教授  
児童文学、国語教育  
近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

**山口悦司** 准教授  
科学教育  
人々の科学の学習をイノベティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

**山下晃一** 准教授  
教育制度論、教育経営学  
代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾的關係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

**山根隆宏** 准教授  
発達臨床心理学、発達障害児家族支援  
発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

**吉永 潤** 教授  
社会認識教育論  
社会認識とは何か。それは、つきつめれば、人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。

**渡邊隆信** 教授  
西洋教育史、教育哲学  
20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。

## 国際交流

## 交換留学生の受け入れ

国際人間科学部生は、32か国の91協定校に交換留学が可能です。国際人間科学部では、これらの協定校から、年間約80名の交換留学生を受け入れています。本学部キャンパスにおいて、留学生と共に学びながら、様々な異文化に触れることができます。また、本学部では在生によるチューター組織があり、留学生の来日時の手続き、学修、日常生活などのサポートを行っています。留学生とのパーティーや淡路島ショートトリップなどの行事や、ハイキング、花見、紅葉狩り、六甲祭出店など様々な自主イベントの企画・運営も行います。これらの交流活動を通して広い世界を知り、体験し、飛躍する力を身に付けることができます。



## 交換留学生メッセージ



**Ihzza Alief Hidayatilla**  
イーザ アリフ ヒダヤティッラ

【出身校】 ガジャマダ大学（インドネシア）

私はインドネシアのガジャマダ大学で日本語を勉強しています。将来、日本語の教師になることを目指しています。それで、毎日一生懸命日本語を勉強しています。日本語だけではなく、日本の生活や文化や歴史などに関心を持っています。特に女性の生活と歴史です。日本の女性達は、昔から美しさや優雅さや強い原則などの印象を持っていると思います。それで、神戸大学で1年間勉強する機会を通して、女性についての知識も深めたいと思っています。神戸大学は優れた学習環境を備えた大学で、先生達は優しく友好的で優れた教育システムも備えていると思います。学生達も熱心に勉強するため、私が毎日勉強する意欲を高めることができます。神戸大学で交換留学生になるのはとても良かったと思います。



**Aleksandar Raducić**  
アレクサンダー ラドゥツィッチ

【出身校】 ハンブルク大学（ドイツ）

私は、ハンブルク大学で日本学を専攻しており、日本文化についての知識を深めたいと思い、神戸大学へ留学しました。国際問題に興味を持ち、国際人間科学部で勉強したいと思いました。留学の目的の一つは日本人と交流することだったので、日本人と一緒に授業を受けたり、国際交流イベントに参加したりして、日本人の友達がたくさんできました。初めての留学はとても不安で、悩む時もありましたが、その時にGSPオフィスはいつも私の相談に乗ってくれました。面白い授業を取ったり、日本人と交流したりすることができて、国際人間科学部で勉強して良かったと感じています。今後は、国へ帰っても、留学生生活で得た経験を生かして、日本文化や日本語の学びを深めていきたいと思っています。

## 神戸大学 EU エキスパート人材養成プログラム (KUPES)

EU エキスパート人材養成プログラム (KUPES) は、国際人間科学部を含む4学部と3研究科の学生が、EU (欧州連合) に関してそれぞれの専門分野と学際的観点から多面的かつ体系的に学べるように、神戸大学が開発した学位プログラムです。学部2年生から博士前期 (修士) 課程まで一貫したカリキュラムを提供し、EU の社会文化・法・政治・経済的側面について専門的かつ分野横断的に研究する能力や高度な語学力を段階的に習得できます。



## 主な協定校

国・地域		教育研究機関
中国	China	Beijing Foreign Studies University, Beijing Normal University, East China Normal University, Minzu University of China, Nanjing University, Renmin University of China, Shanghai Jiao Tong University, The University of Hong Kong, Tsinghua University, Wuhan University
インドネシア	Indonesia	Gadjah Mada University
韓国	Korea	Chung-ang University, Jeju National University, Pusan National University, Korea Nazarene University, Seoul National University
モンゴル	Mongolia	National University of Mongolia
フィリピン	Philippines	Ateneo de Manila University, San Beda College
シンガポール	Singapore	Nanyang Technological University
台湾	Taiwan	National Chengchi University, National Taiwan University, National Cheng Kung University
タイ	Thailand	Thammasat University, Kasetsart University
ベトナム	Vietnam	Vietnam National University, Ho Chi Minh City University of Social Sciences and Humanities
オーストラリア	Australia	Curtin University, The University of Queensland, The University of Western Australia, University of Wollongong, The University of New South Wales
カナダ	Canada	Huron University College, University of Ottawa
アメリカ合衆国	United States	Queens College of The City University of New York, The University of Pittsburgh, The University of Tennessee at Knoxville, University of Georgia, University of Maryland, Utah State University, Georgia Institute of Technology
ブラジル	Brasil	University of Brasilia
オーストリア	Austria	FH JOANNEUM University of Applied Sciences, University of Graz
ベルギー	Belgium	Ghent University, Katholieke Universiteit Leuven, Saint-Louis University, Vrije Universiteit Brussel, Université Libre de Bruxelles (ULB)
ブルガリア	Bulgaria	Sofia University St. Kliment Ohridski
チェコ	Czech	Charles University
デンマーク	Denmark	Aarhus University
フィンランド	Finland	University of Helsinki
フランス	France	Université de Lille, Université de Rennes 1, Université Grenoble Alpes, Université Paris 2 Panthéon-Assas, Université Paris Diderot Paris 7, Université Paris Ouest Nanterre La Défense, L'Université d'Aix-Marseille
ドイツ	Germany	Free University of Berlin, Kiel University, Martin Luther University Halle-Wittenberg, Trier University, University of Hamburg, Leipzig University, Technical University of Dresden, Technical University of Munich, Technical University of Darmstadt
ハンガリー	Hungary	Eotvos Lorand University
イタリア	Italy	Ca' Foscari University of Venice, Università degli Studi di Napoli "L'Orientale" UNIOR, Università di Bologna Campus di Forlì, Università di Bologna
リトアニア	Lithuania	Vilnius Gediminas Technical University
オランダ	Netherland	Leiden University
ノルウェー	Norway	University of Bergen
ポーランド	Poland	Jagiellonian University, Nicolaus Copernicus University in Toruń, University of Warsaw
ルーマニア	Romania	Babes-Bolyai University
ロシア	Russia	Saint-Petersburg State University, Ural Federal University
スペイン	Spain	Autonomous University of Barcelona, University of Barcelona
スイス	Switzerland	University of Basel
英国	United Kingdom	School of Oriental and African Studies (SOAS) University of London, The University of Manchester, The University of Sheffield, University of Birmingham, University of Essex, University of Kent



## キャリア支援

国際人間科学部では、所属する学生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っています。

### 1 充実した バックアップ体制

国際人間科学部の鶴甲第1キャンパス、鶴甲第2キャンパス両方に、キャリア形成を支援するキャリアサポートセンターをそれぞれ設置しております。学生が自らの専門性をどのように社会に生かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を支援します。さらに、鶴甲第1キャンパスには、神戸大学全学生を支援対象としたキャリアセンターがおかれ、こちらも利用することができます。

### 2 各種セミナー、 ガイダンスの開催

さまざまな就職活動支援セミナー（就活スケジュール、エントリーシート作成、業界・企業・仕事研究、グループディスカッション練習、面接対策など）、教員採用試験対策講座、各自治体教育委員会からの説明会、公務員試験対策講座（心理・福祉系など）、キャリア講座などを開催しています。さらに、OBOG訪問の仲介や内定獲得者との面談のアレンジを行っています。

### 3 就職、大学院進学、進路、 キャリアに関する個別相談

キャリアアドバイザーが就職活動、進路・キャリア形成全般に関する支援を、個別面談という形で行っています。具体的には、就職活動全般、自己分析支援、業界・企業・仕事研究支援、エントリーシート作成支援、論文フィードバック、模擬面接、大学院進学・キャリアなどに関する相談に対応しています。

## 学生生活支援

充実した学生生活をサポートするために様々な制度を用意しています。詳細については、神戸大学ウェブサイトの「教育・学生生活」(<http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife>)をご覧ください。



### 奨学金

神戸大学には、独立行政法人日本学生支援機構、民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給付」とがあります。また、奨学金制度以外に、入学料免除、授業料免除（全額免除・半額免除）の制度があります。

### 学生寮

神戸大学では、修学に適する良好な環境を提供するため、学生寮を設置しています。学生寮は、男子学生用に「住吉寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」、女子学生用に「女子寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」があります。また、日本人学生と留学生の混在型となっており、国際的な交流ができることもメリットです。

### 健康

保健管理センターにおいて、健康診断を実施し、心身の健康に関するあらゆる相談を受け付けています。「からだの健康相談」では医師が、健康診断の結果や日常の健康に関する様々な相談を受け付ける他、学内における救急処置に対応しています。また、「こころの健康相談」ではカウンセラー及び医師が、様々な悩みや心配、心身の状態について相談を受けています。

## 施設と設備

### ラーニングコモンズ (Learning Commons)



ラーニングコモンズとは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。国際人間科学部には、鶴甲第1キャンパスに4箇所、鶴甲第2キャンパスに4箇所のラーニングコモンズが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

### 図書館



神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。国際人間科学部では、鶴甲第1キャンパスには総合・国際文化学図書館、鶴甲第2キャンパスには人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースが充実しています。また、ガイダンス、講習会、各種イベントを通して、データベースの使い方やレポートの書き方など、大学生活に役立つスキルを演習形式で学ぶこともできます。

### 交流スペース



2つのキャンパスには、学生同士が活発に交流できるスペースとして、それぞれ「Intercultural Cafe」(鶴甲第1キャンパス)、「Global Human Science Cafe」(鶴甲第2キャンパス)が置かれています。特に、毎年、世界各国から多くの留学生が学ぶ国際人間科学部では、これらのスペースの利用やそこで実施される行事への参加を通じて、様々な文化的背景を持つ学生と交流し、多種多様な世界の文化に触れ、理解を深めることができます。

### ICT関係の設備

無線LAN、学内ネットワーク、教育用端末、PC必携化、図書館データベースなど



国際人間科学部のほぼすべての教室や共有スペースにおいて、学内無線LANへのアクセスが可能です。また、神戸大学では、教育・研究・学習の目的で、Apple社のiMacを約1300台設置しており、本学部においても利用することができます。神戸大学では、高度情報化社会において情報通信技術の十分な活用能力を有する人材を育成し、それらの技術を活用した教育の提供を目的に、パソコンの必携化を実施しています。学修支援システム(BEEF等)を利用した双方向授業、レポートの作成・提出、講義資料の閲覧、電子雑誌・図書の閲覧等にパソコンを活用します。

## 募集人員、取得可能な資格免許、沿革

## 2021年度学生募集人員

学科	入学定員	一般選抜		総合型選抜		学校推薦型 選抜	社会人 特別選抜	私費外国人留学生 特別選抜
		前期日程	後期日程		「志」特別選抜			
グローバル文化学科	140名	95名	35名	—	—	10名	—	若干名
発達コミュニティ学科	100名	54名	10名	スポーツ科学受験 12名 [表現領域受験] 音楽受験 12名 美術受験 8名 身体表現受験 4名	—	—	若干名	若干名
環境共生学科	80名	文系 23名 理系 30名	文系 8名 理系 9名	理数系科目受験 3名	7名	—	若干名	若干名
子ども教育学科	50名	39名	11名	—	—	—	若干名	若干名

## 取得可能な資格免許

学科	取得可能な資格	取得可能な免許
グローバル文化学科	学芸員	中学校教諭一種（英語） 高等学校教諭一種（英語）
発達コミュニティ学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格 公認心理師受験資格（注1）	中学校教諭一種（保健体育、音楽、美術） 高等学校教諭一種（保健体育、音楽、美術）
環境共生学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種（理科、数学、家庭、社会） 高等学校教諭一種（理科、数学、家庭、地理歴史、公民）
子ども教育学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	幼稚園教諭一種 小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種

（注1）「心の探究プログラム」を選択する学生が主。受験資格取得には、卒業後に大学院で公認心理師科目を修得するか、一定期間の実務経験が必要です。

## 沿革

## 国際文化学部・国際文化学研究科

1923年（大正12年）	官立姫路高等学校設立
1949年（昭和24年）	神戸教養課程設置
1963年（昭和38年）	神戸大学教養部設置
1992年（平成4年）	神戸大学教養部を改組し、 神戸大学国際文化学部設置
1997年（平成9年）	神戸大学大学院教育学研究科を改組し、 神戸大学大学院総合人間科学研究科 修士課程設置
1999年（平成11年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士課程設置
2005年（平成17年）	神戸大学国際文化学部改組
2007年（平成19年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科を 改組し、神戸大学大学院国際文化学 研究科設置

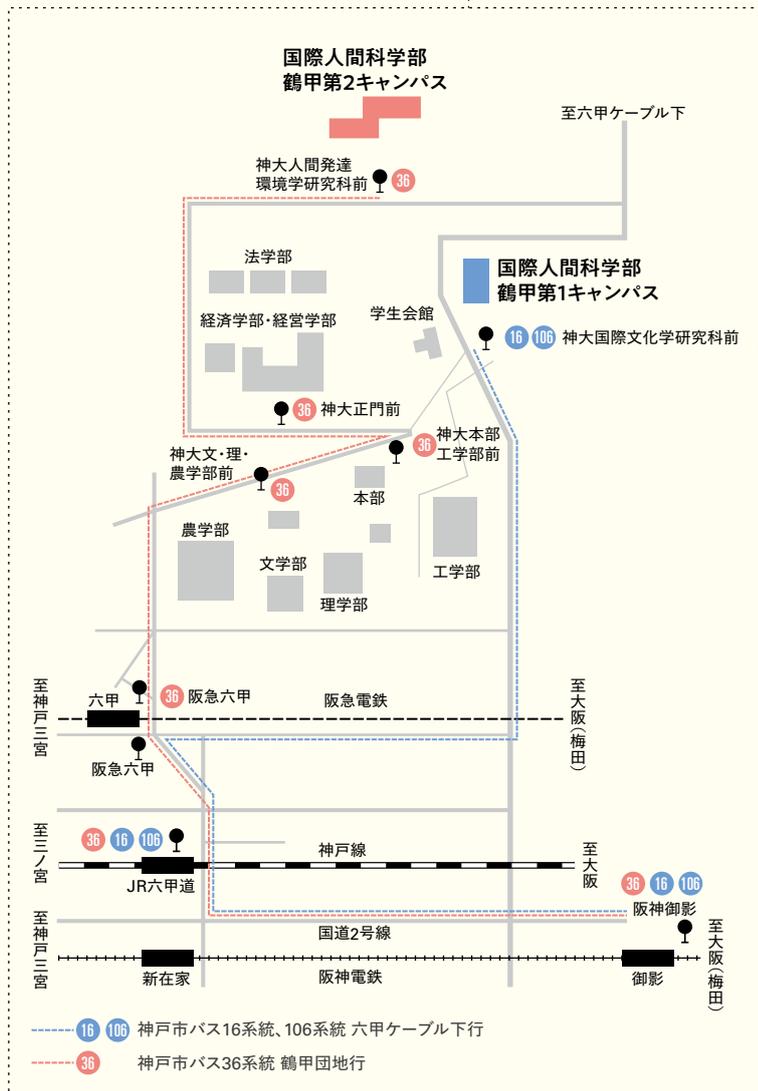
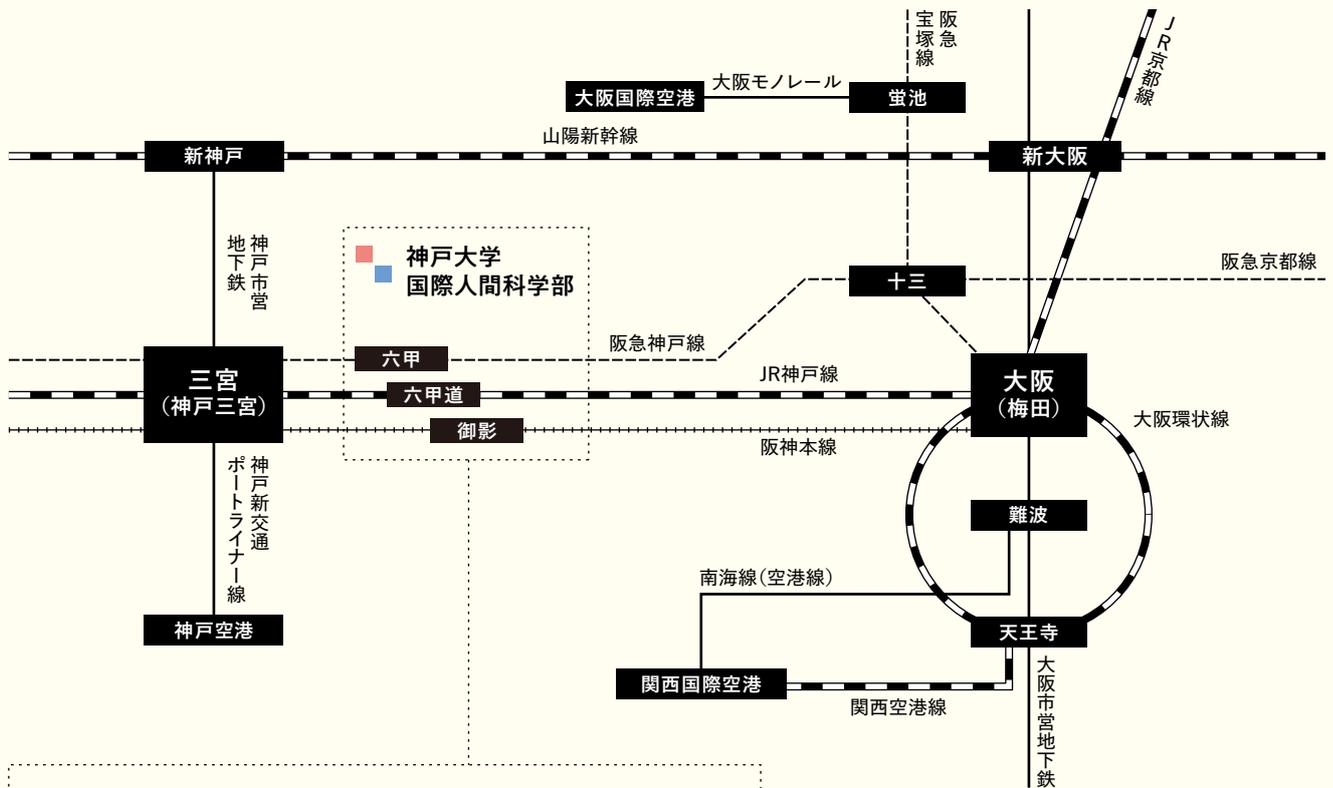
## 発達科学部・人間発達環境学研究科

1874年（明治7年）	兵庫県師範伝習所設置
1949年（昭和24年）	兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し、 神戸大学教育学部設置
1981年（昭和56年）	神戸大学大学院教育学研究科修士課程設置
1992年（平成4年）	神戸大学教育学部を改組し、 神戸大学発達科学部設置
1997年（平成9年）	神戸大学大学院教育学研究科を改組し、 神戸大学大学院総合人間科学研究科 修士課程設置
1999年（平成11年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士課程設置
2005年（平成17年）	神戸大学発達科学部改組
2007年（平成19年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科を 改組し、神戸大学大学院 人間発達環境学研究科設置

## 国際人間科学部

2017年（平成29年）	神戸大学国際文化学部と発達科学部を 再編統合し、神戸大学国際人間科学部を設置
--------------	---

# アクセス



### 最寄りの駅からのアクセス

最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。

### 鶴甲第1キャンパス

神戸市バス16系統、106系統「六甲ケーブル下方面」または「神戸大学鶴甲第一キャンパス東門」行に乗車、「神大国際文化学研究所前」で下車。

### 鶴甲第2キャンパス

神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗車、「神大人間発達環境学研究所前」で下車。

## 神戸大学 国際人間科学部

### 鶴甲第1キャンパス

[グローバル文化学科]

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

電話 078-803-7515 (代表)

### 鶴甲第2キャンパス

[発達コミュニティ学科、環境共生学科、子ども教育学科]

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11

電話 078-803-7905 (代表)

<https://www.fgh.kobe-u.ac.jp>

2020年6月発行



